

「志賀高原の山を歩く」

(ヤナギランの魅力から逃れられずに)

(1388) M/K

8月21日～22日に予定していた志賀高原の山歩きプランが早々と消滅したので多少がっかりしたのだが、7年前に見て感激した横手スキー場のゲレンデのヤナギランの群生を又見たいとの思いは消し難く、普段私の山行の時はサブリーダーをお願いしているHさん夫妻をお誘いして出かけることにした。もうひとつは同じ志賀高原にある焼額山に登る事だった。実は昨年8月下旬に会長の奥さまのプランで焼額山山行があり、高山植物の宝庫と知ったためだ。残念ながらその山行には参加できず、2週間後に家内と登ったのだがヤナギラン(時期が終わっていた)以外の高山植物に出会え感激した記憶があった。出かける前の予定では、21日に焼額山に登り、22日に横手スキー場のヤナギランを見に行くという計画だった。しかし天気の状況が思わしくなく、予定を逆にする事に。濃霧の中渋峠で雨具を着込み、スキーリフトに乗り横手山山頂へ。ここには日本一高所にあるパン屋さんがあり、ここで明日の昼食用のパンを調達し、横手スキー場のゲレンデへ向かって下る。およそ20分下り続ける。家内はこんなところにヤナギランの群生なんかあったけ、もう戻ろうよと弱音を吐く。さらに少し下がると、視界がひらけるとそこはスキー場のゲレンデ、なんとヤナギランの群生が。7年前に見た光景がよみがえった。良かったやっぱりあった。しばし4人で感激する。我々のほかには誰もいない。まさに貸切状態。こんな景色を4人で独占していいのかなあ。さあ戻ろうか、まてよこのまま草津峠を經由して鉢山に登り、四十八池を通過して硯川に下ろうと提案した。つまり22日の予定のコースだ。四十八池に至るまでに行きあったのは2人連れの中年の女性だけ。聞けば硯川から志賀山を登って、横手山へ向かうという。かなりの健脚のようだ。我々とは逆コースでほとんど登りずめの行程だ。無事硯川へ下山し今日の予定終了。

22日、天気はお昼までは持ちそうだ。プリンスホテル西館の登山道から焼額山を目指して歩き出す。30分ほど樹林帯を登るとスキー場のゲレンデの下端に出た。なんと昨年9月には無かったヤナギランの群生が。しばし撮影タイム。昨日の横手スキー場のゲレンデのヤナギランと照らし合わせれば、志賀高原の山にはこの季節にこの花はごく当たり前の花なのかもしれない。やがて完全に樹林帯を抜けてゲレンデに登るようになるともうあちこちにヤナギランの群落の塊が、ヨツバヒヨドリ、マツムシソウ、アザミ、が、山頂から北面へ下り始めると、コオニユリも、コバイケイソウは残骸になっていた。これから盛りになるリンドウもあちこちに。とにかくヤナギランを満喫してきた2日間だった。

